「パンは人のためにならず」

―２稿―

2024/12/31

雨森　れに

〈人物表〉

安藤　つむぎ　（４２）　パン屋のおかみさん
安藤　勇樹　（４２）　パン屋の主人
寺沢　タエコ　（１２）　フィリピン人のハーフ。中学生
安藤　タエコ　（１７）　５年後のタエコ。安藤家の養子

〈ログライン〉

子供に恵まれなかったパン屋のつむぎが、ネグレクトされているタエコを目撃し、同情心からパンを与え、最終的に自分の養子にする。

〈ねらい〉

・テーマ触媒：ことわざ
情けは人のためにならず
意味　人に親切にすれば、その相手のためになるだけでなく、やがてはよい報いとなって自分にもどってくる

1.

パン屋・外観（朝）

商店街にある、町のパン屋。規模は小さいが、窓は大きく、店内が見える。

寺沢タエコ（１２）が店前を通り過ぎる。

タエコは夏の制服に男物のジャンパーを羽織り、寒そうにしている。

2.

パン屋・厨房（朝）

安藤つむぎ（４２）が、焼けたパンをトレーに移している。

外を通るタエコに気付いて、

つむぎ「ねぇ。またベンジャミンのとこの子がいる」

後ろでパン生地をこねる安藤勇樹（４０）に話しかける。

勇樹　「ほっとけよ」

しかし、つむぎはタエコから視線を離せない。

タエコがスナック「ベンジャミン」の前に座り込む。

すぐにベンジャミンから女性が出てきて、タエコに千円札を投げつける。

つむぎ、それを見て、思わず非難めいた声をあげる。

勇樹　「どした」

つむぎ「あの子、お金投げつけられてる」

勇樹　「だから、ほっとけって」

つむぎ「あの親、おかしいんじゃないの」

勇樹　「文化の違いかもしれないし」

つむぎ「だからってさ、ああもう」

つむぎが店を出ようとする。

それを勇樹が制する。

勇樹　「行って、どうするんだよ」

つむぎ「どうって」

勇樹　「あの子はよその子。自分が子供欲しかったからって、どんな子供にも優しくするのは違うと思うよ」

勇樹、店の外を指差す。

外に女性はおらず、タエコがお金を拾おうとしてい

る。

勇樹「ほら。泣いてないし」

つむぎ、タエコの様子を伺う。

タエコは指がかじかんで、なかなかお金が拾えない。

つむぎは見るに見かねて、

つむぎ「私、掃き掃除してくる！」

ホウキを持って、店を出る。

3.

パン屋・外（朝）

つむぎ「ちょっと！」

タエコが驚いて立ち上がる。やせ細った体は震え、頬や脚が寒さで赤い。あかぎれの目立つ手には千円札が握られている。

つむぎはタエコの姿に衝撃を受け、眉間に皺を寄せる。

タエコ「ご、ごめんなさい！」

タエコの手から千円札が1枚落ちる。

タエコはお金とつむぎを見比べ、拾わずに逃げる。

つむぎ「待って、お金！」

つむぎ、ため息。落ちている千円札を拾う。

勇樹が背後から近寄る。

勇樹「あんな言い方したら怒られるって思うって」

つむぎ「だって心配で」

勇樹「子供も扱えないのに助けようなんて考えるなよ」

つむぎ「あんたには情がないの？　私たちに子供がいたらあのぐらいの年なんだよ？」

勇樹「だからこそだよ。さっきも言ったけど、あの子はよその子だから」

つむぎは口を一文字にする。納得できないというように。

勇樹「これ以上は無駄だな。俺、戻るよ」

つむぎ「私は、ホウキかけてから戻る」

勇樹、店へ。

つむぎは勇樹に背を向けるようにしてホウキをかけ

る。

4.

パン屋・店内（夜）

つむぎがパンのトレーを拭いている。
ふと外を見ると、タエコらしき姿。
慌ててレジを開け、「あの子の」と書かれたポチ袋を掴む。
扉を開け、まわりを見渡すが、タエコの姿はない。
深いため息をつく。

勇樹　「もうやめろって」
つむぎ「お金返してあげたいだけ」
勇樹　「お前の事だから、もっとやってあげたくなるだろ。泥沼だよ」
つむぎ「……子供には大人の助けが必要だと思う」
勇樹　「それはお前じゃなきゃダメってわけじゃないだろ」
つむぎ「私が、あの子を助けたいの」
勇樹、何か言おうとしてやめる。
つむぎ「笑ったら、かわいいかもって思っちゃったんだよね」
つむぎ、窓の外を見る。タエコを探すように。

5.

パン屋・店内（朝）

つむぎ、パンを並べながら、窓の外を見ている。
つむぎ「来た」
ポチ袋を掴み、店の外へ。

6.

パン屋・外（朝）

つむぎがタエコに声をかける。
つむぎ「ねえ、アンタ」
タエコ「（驚いて）は、はい！」
つむぎ「あ、おばちゃん怒ってないからね。アンタにこれ渡したくて、声かけたんだよ」
つむぎがポチ袋を差し出す。
タエコが不思議そうに中身を見る。
つむぎ「昨日忘れていったでしょ」

タエコ「あ、昨日の……あの、逃げてごめんなさい。拾ってくれてありがとうございます」
つむぎ「アンタのお金だもん。渡せてよかった」
つむぎ、ポチ袋をさして、
つむぎ「ごめんね。名前、わからなかったから」
タエコ「わたし、寺沢です。寺沢タエコ……」
タエコの表情に影が落ちる。
つむぎ「なに、どうしたの？」
タエコ、どう答えればいいかわからず狼狽える。
つむぎ「言いたくない事は言わないでいいよ。それで、タエコちゃん。物は相談なんだけど、おなかすいてない？」
タエコ「え？」
つむぎ「おばちゃんち、そこのパン屋なんだけどさ。余ったやつ食べてくれないかなって」
タエコ、戸惑いつつもこくりと頷く。
つむぎ「（笑って）おいで」
つむぎはタエコの手を取り、店へ。

7.

パン屋・厨房（朝）

厨房の隅。
タエコがそわそわとした様子で椅子に座っている。
つむぎはトレーを差し出す。トレーにはクリームパンと卵サンド。
つむぎ「どうぞ」
タエコ、クリームパンを手に取って、
タエコ「すごい。まだあったかい」
おそるおそるかじる。
美味しさに目を見張り、次々とがっつく。
つむぎ「慌てないでいいよ」
勇樹、隠れるようにしてタエコの様子を見ている。
怪訝そうな表情が、徐々に和らいでいく。
タエコ「スーパーのとぜんぜん違う」
つむぎ「比べちゃスーパーが可哀想だよ」
勇樹　「俺の腕がいいって言えよ」

勇樹がタエコの前に姿を現す。

タエコが硬直する。

つむぎ「大丈夫。私の旦那だよ」

勇樹「ここでパンを焼いてる勇樹って言います。それ、おいしかった？」

タエコ、食べかけのパンを見てから、

タエコ「すっごくおいしいです！」

勇樹、タエコの笑顔につられて笑う。

勇樹「そっか。パンは好き？」

タエコ「いつも食べてるのはあんまりだけど……これは好きです」

勇樹「じゃあ、明日もおいで」

つむぎ、驚いたように勇樹を見る。

つむぎ「いいの？」

勇樹「笑ったら、かわいいよな」

つむぎ「タエコちゃん、明日もおいで。ううん、いつでもおいでね」

勇樹「今まで大変だったんだろ」

つむぎ「私たちを頼っていいんだよ」

タエコ、顔をくしゃくしゃにして何度も頷く。

8.

パン屋・外（朝）

「ベンジャミン」に空きテナントの張り紙。風に揺れて、飛ばされそうになっている。

安藤タエコ（17）がパン屋前を掃き掃除している。

つむぎ「タエ、寒くない？」

タエコ「お母さんこそ寒いから中入ってなよ。また膝が痛くなるよ」

つむぎ「はいはい。一言多いのは誰に似たんだか」

タエコ「あ、今日はクリームパンと卵サンドがいい！」

つむぎ「お父さんに言っとく」

店に戻るつむぎ。

それを見送るタエコ。表情は晴れやか。

おわり